

低炭素都市づくり・エネルギーワークショップ in 川崎

～30年後のカワサキをデザインする～

ワークショップのねらい:

2011年3月の東日本大震災に伴う原子力発電所の事故をきっかけに、エネルギー選択に関わる議論が時代の大きな要請となりました。加えて、気候変動に関わるパリ協定が2015年12月に採択、2016年11月に発効され、温室効果ガスの大幅削減が求められています。

このため、長期的視野に立った、地域の低炭素都市づくり、エネルギー選択について、多くの世代が参加し、議論をしながら、それぞれの立場で課題解決に向かうことが求められています。本ワークショップは、その議論の場を提供し、2050年に向けた実践の取り組みを後押しするものです。

日時: 2017年11月11日(土) 10:00 ~ 17:00

2017年12月2日(土) 10:00 ~ 18:00

場所: ユニオンビル2階セミナールームB(武蔵小杉)

主催: 川崎市地球温暖化防止活動推進センター(認定NPO法人アクト川崎)

共催: 一般社団法人環境政策対話研究所

後援: 川崎市、全国地球温暖化防止活動推進センター

プログラム

1日目(11月11日・土曜日)

9:40	受付 参加者は、予め決められた席に着席(5つのグループに分かれる) ワークショップへの参加に当たっての連絡・注意事項	司会: 庄司佳子
10:00	開会 挨拶 竹井斎 全体オリエンテーション 柳下正治	
10:20	ウォーミングアップ	以下、進行は篠田さやか(FA)
10:30	低炭素都市・エネルギー問題に関する知識の習得 ●専門家によるレクチャー 鈴木 洋昌 (川崎市のエネルギー・温暖化対策) 西岡 秀三 (気候変動、低炭素社会・都市づくり)	情報資料集の活用 ~11:15 休憩~
12:10	昼食	会場内
13:00	●専門家によるレクチャー 木村 浩 (エネルギー政策、エネルギー選択)	
13:45	グループ作業~専門家レクチャーへの質問作成~ 事前学習と、専門家のレクチャーを踏まえて ①理解を深めるため ②レクチャーを聞いての気付き、質問づくり(1班2問)	付箋、ホワイトボード、模造紙の活用 質問の作成
—休憩— 事務局側では、提出された質問の整理		
14:40	専門家とのQ&Aセッション……知識の共有 が目標 質問の趣旨の説明 専門家より回答	
15:25	ワークショップにおける「 将来の姿 」と「 視点 」の説明 柳下正治	情報資料集の活用
15:45	討議直前のアンケートの実施	アンケート用紙に記入
15:55	グループの編成 一類似価値観グループの形成— 「7つの姿」「7つの視点」を用いて個人の価値観を表出 ①ダイヤモンドグラムの記入 ②類似価値観グループの形成 ③自己紹介、グループ名を考える	ダイヤモンドグラムの活用
16:45	閉会、連絡事項等のアナウンス	
16:50	初日終了	
17時頃から懇親会 (会費制・18時30分頃解散予定)、参加者間の交流		会場: 居酒屋「具志堅」(徒歩数分)

<p>将来の 川崎市の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 素材産業型ものづくり都市 ➢ 転換型ものづくり都市 ➢ 研究技術開発・教育拠点都市 ➢ 都心形成都市 ➢ 芸術・スポーツ先進都市 ➢ 国際都市 ➢ 住環境都市 	<p>重視する 視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 産業構造の変革 ➢ 革新的省エネルギー技術 ➢ 省エネルギー的ビジネス・ライフスタイル ➢ グリーンエコノミーの追求 ➢ 都市構造、交通システムの低炭素化 ➢ 供給されるエネルギーの低炭素化 ➢ 世代間の公平性
----------------------	---	--------------------	---

2日目(12月2日・土曜日) <スケジュール見直しの可能性があります>

9:40	受付開始	
10:00	再確認オリエンテーション 前回のおさらい・本日のスケジュール 柳下正治	司会: 庄司佳子 以下、進行は篠田さやか(FA)
10:15	グループ討議 I 「2050年の低炭素都市川崎の姿・一次案」 2050年に目指すべき川崎市の姿 エネルギー需要を以下に提言させるか 供給エネルギーをいかに低炭素化するか、電源構成 重視する視点、議論から得た気づき、今後の論点	付箋、ホワイトボード、模造紙の活用 →討議結果(模造紙)、壁に貼り出し
11:15	エネルギー・シミュレーションの実施 芦名秀一 オリエンテーション 討議結果に基づき入力データをシートに記入 パソコンにデータ 報告シートの作成	PPTの活用 グループごとにシミュレーションの実施 各グループに EXCEL が動く Windows パソコンが必要
12:10	昼食(会場内)	
13:00	グループ討議 II 「2050年の低炭素都市川崎の姿・二次案」 シミュレーション結果の振り返り 一次案の修正 新たな気づき、論点 ※必要に応じて、シミュレーションを再実施	修正は(青・緑)マーカーで。
13:40	発表 各グループの発表・質疑応答と意見交換(4分+4分ずつ)	5~6グループ
—休憩—		
14:30	グループ討議 III 「2050年の低炭素都市川崎の姿・最終案」 質疑応答・意見交換、他グループの発表を踏まえて、最終案の検討 二次案の修正 残された課題、全体を通じての気づき 「2050年の低炭素都市川崎」を実現するために	修正は(赤)マーカーで。 →最終案(模造紙)を貼り出す
—休憩— 発表準備		
16:35	発表(4~5分/グループごと)・・・最終案、討議の変遷、気づきと発見等	ボードに貼り出された模造紙を活用
17:05	講評 専門家	
17:25	ワークショップ終了後のアンケートの実施	アンケート用紙に記入
17:40	閉会挨拶 竹井斎	
17:45	終了・解散	
18時頃から懇親会(会費制・19時30分頃解散予定)、参加者間の交流		会場にて(予定)

ワークショップの成果

- ①参加者で創った、2050年の低炭素都市川崎の姿
- ②都市像検討、エネルギー選択において大事にした視点
(こだわること、負ってもよい不利益)
- ③一次案から最終案までの検討で得られた気づきと発見、課題
- ④これからの活動、取り組みへのきっかけ作り

専門家

鈴木洋昌:川崎市環境局地球環境推進室 担当課長
西岡秀三:(公財)地球環境戦略研究機関 参与
木村 浩:NPO法人パブリック・アウトリーチ 研究企画部研究統括
(一社)環境政策対話研究所 理事)
柳下正治:(一社)環境政策対話研究所 代表理事(上智大学 客員教授)

ファシリテーター

篠田さやか:オフィスキュア 代表

エネルギーシミュレーション開発に関わる専門家

芦名 秀一(国立開発研究法人国立環境研究所 シニアリサーチャー)

協力者・スタッフ

藤木勇光:電源開発株式会社 秘書広報部
鳥越干城:プロジェクト開発の専門家
長谷川雅世:(一社)環境政策対話研究所 理事
飯野千賀:(一社)環境政策対話研究所
植田朋子:(一社)環境政策対話研究所
竹井 斎 :認定NPO法人アクト川崎 理事長
庄司佳子:認定NPO法人アクト川崎 副理事長
中山育美:認定NPO法人アクト川崎 理事

事務局

川崎市地球温暖化防止活動推進センター
／認定NPO法人アクト川崎
〒213-0001 川崎市高津区溝口1-4-1
ノクティ2・11階 高津市民館内
Tel:044-813-1313 e-mail:office@kwccca.com

事務局

川崎市地球温暖化防止活動推進センター
〒213-0001 川崎市高津区溝口1-4-1 ノクティ2・11階